



森末さんはトマトやキュウリ、ナスのほかジャガイモとサツマイモも育てています。

3年前になりましたが白糠町役場の担当者へお話を聞きに伺いました。当時、夫は大型車の運転手をしていたので、夫に農家になってもらおうと思ったんです。私は子どもも小さいですし、主婦なのでちょっと夫の仕事を手伝えればいい、くらいに思っていました。夫は家庭菜園が好きだったので「白糠にはこんな支援があるよ」とか「こんなに支援が手厚いなら農家になれるんじゃない？」などと言って、ちよくちよく夫の背中を押していたんです（笑）。夫も最初は「そんなの無理だよ」とか「農

## 白糠町の農業支援は 全国トップクラス

業の世界は厳しいよ」とか言っていたんですが、徐々にその気になってきて「まずは役場に行って話だけでも聞いてみるか」となったんです。役場でお話を聞いた後にも、札幌で開かれている「新規就農フェア」に行くなどして、たくさん自治体からお話を聞かせていただいたんですが、どこのお話を聞いても、白糠町の支援がダントツだったんです。中でも3年間の農業研修期間中に、生活資金の心配がいらないというのが一番の決め手でした。そのほかにも白糠町は子育て支援が充実していますので、本当に魅力的でした。総合的に判断してもやっぱり白糠だったんです。他の自治体ですと、ハウレンソウを栽培するならハウレンソウだけ、トマトならトマトだけというように野菜の種類が決められていますし、栽培方法も決められていて自由にできないのです。農家をやるならば自分たちで一から決めて、こだわって作っていきたいという思いがあったので、自由ができるという点でも白糠町がすごく良かったのです。

白糠町で農業をやることに決めて役場へ行ったのですが、担当者



森末 祐香里さん  
岡山県岡山市出身。夫の剛さん(44)と長女の奏さん、次女の亜麻音さん、長男の綴くんと5人家族。今年の3月に家族で釧路市から白糠町へ移住。夫の剛さんは札幌の株式会社H.Eファームの職員として庶務の畑でアスパラを栽培しています。趣味は読書、絵を描くこと。

特集

## 新規就農を目指して 森末 祐香里さん

## 大自然の中で 働くのが夢

白糠町では、基幹産業の一つである農業の発展を一層進め、日本を支える食料の一翼を担う地域として、生産力の向上を目指しています。また、農業を次世代へと引き継ぎ守っていくために、新規就農者への積極的な支援をしています。今月号では白糠町での新規就農を目指して、今年の4月から地域活性化支援員として農業研修を行っている森末祐香里さんにお話を聞きました。

私は岡山県岡山市で生まれ育ったのですが、中学生くらいの頃から北海道で農業をやりたいという思いがありました。母親は料理が得意で、私も料理に興味を持つようになって、もちろん食べることも好きでした。子どもの頃からよく野菜も食べさせてくれていたのですが、野菜も好きでした。自然や動物も好きだったので「北海道の大自然の中で働きたい！」という気持ちですごくありました。子どもの頃の夢ですね（笑）。それで農業高校へ行こうと思ったのですが、

家から学校が遠かったので諦めて、そうこうしているうちに、農業への思いもだんだんと薄れていったんです。それから時が経って結婚して長女が生まれたのですが、長女は赤ちゃんのときから肌が弱くて「アトピー性皮膚炎」でした。お医者さんからこれまでの食を見直すように言われ、野菜は無農薬のもの宅配で注文したり、調味料も何が使われているのかをよく調べて買うようにしたりと、食材を変えていったんです。そうしたら長女の肌も良くなってきました。そこで改めて食について考えるようになりまして。元々農業をやりたいという思いがあり、食についても考えるようになって、さらに無農薬など、こだわって作られた野菜はおいしいということも分かって、農業への興味が再燃しました。それでインターネットを使って、道内や内地のあらゆる農家さんや自治体の農業支援を調べました。そのときに白糠町の農業支援が充実していることを知ったんです。白糠町には畑作農業のイメージがなく、港町や酪農のイメージだったのでちょっと驚きました。



農家になるという  
夢がかなって最高です。

森末 祐香里